

＼ 介護事業所限定 ／

ICTを使った 新型コロナウイルス感染拡大防止 活用事例集

介護トータルシステム

Care Total System
KOTOBUKI

MIC

株式会社 南日本情報処理センター

1. 法人内で同一職種の職員が、分散勤務する
2. 包括での事務作業を、自宅で行う
3. 居宅ケアマネが、自宅や外出先から作業する
4. 訪看看護師が、自宅や外出先から記録する
5. 訪問介護のヘルパーが、外出先で記録する
6. 面会制限中の入居施設にて、TV電話で家族と面会する

居宅系
サービス

入所系
サービス

居宅系
サービス

居宅系
サービス

訪問系
サービス

訪問系
サービス

入所系
サービス

はじめに

利用者の生活を支えたい。
事業所の経営を守りたい。
職員と利用者の感染防止対策を行いたい。

新型コロナウイルス感染拡大のなか、
介護サービスの経営者・サービス提供責任者の方は、
難しい判断を迫られていると思います。

このホワイトペーパーでは、感染拡大防止のためにICTを使って対策されている
介護事業所の事例をご紹介します。

介護事業所でどんな工夫をしているのか、
それを実現するためにはどんな対策が必要なのか、皆様の参考になれば幸いです。

1. 法人内で同一職種の職員が、分散勤務する

入所系
サービス

居宅系
サービス

複数事業所をもつ法人の悩み

職員同士で感染が広まった場合、事業の継続は難しくなります。

同一業務(請求)を担当している職員、同一エリアを担当している職員(居宅など)が、一度に感染し共倒れすることが無いように、配慮する必要がありました。

職員が、自分の所属する事業所以外の事業所で勤務する、または自宅や利用者宅で勤務するといった、分散勤務+リモートワークの環境を整えたいと考えました。

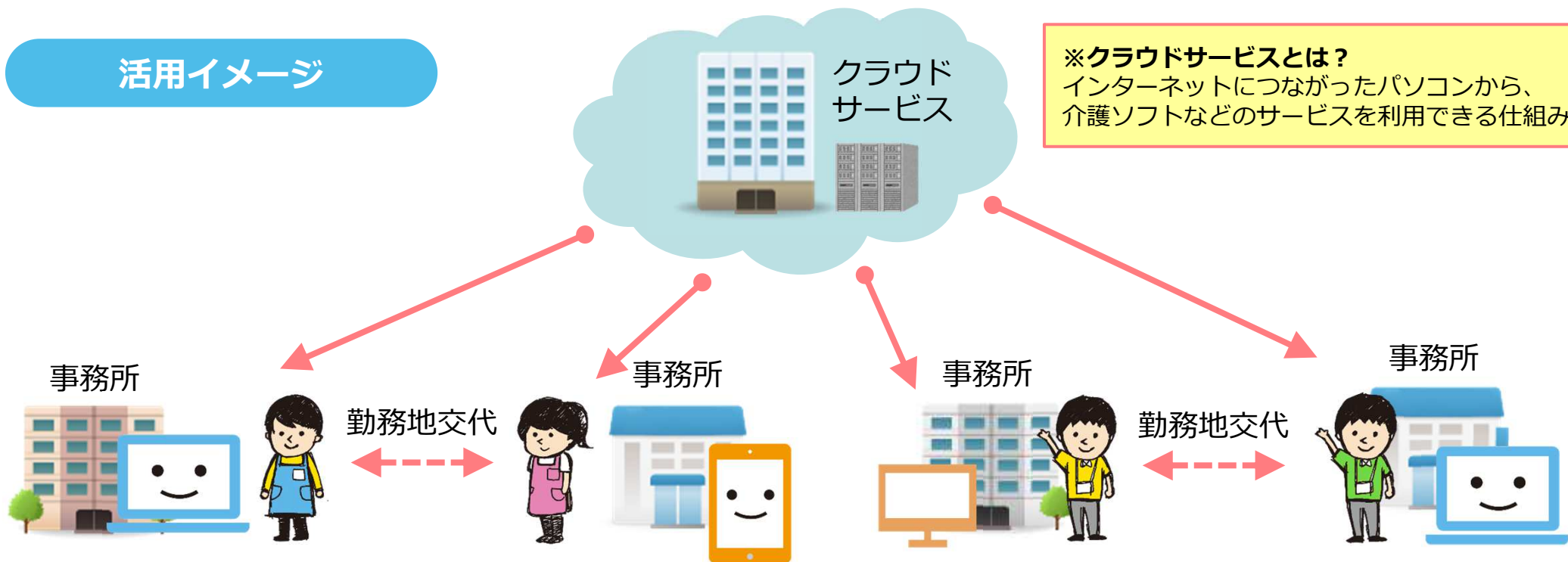
！ 対策とその効果

法人内全ての事業所において、介護ソフトデータを統合し、クラウドサービスで利用できるようにしました。(製品名：寿)

- ◆ 職員はどの事業所においても、介護ソフトに自分のIDでログインすることができます。異なる事業所で勤務する場合も、これまでと変わらないデータ・環境で操作ができます。
- ◆ 各職員が入力したデータは法人内で共有され、万が一感染者が発覚した場合も、法人内で情報共有ができるようになりました。
- ◆ クラウドサービスを利用したことで、職員の自宅から介護ソフトを利用した在宅勤務が可能となりました。

1. 法人内で同一職種の職員が、分散勤務する

活用イメージ



※クラウドサービスとは？

インターネットにつながったパソコンから、介護ソフトなどのサービスを利用できる仕組み

実現のためのポイント

- ✓ 法人内の利用者ID統合や、どこに誰がいつ何を記録するかという運用ルールのすり合わせを行う必要があります。
- ✓ クラウドサービスを利用するにはインターネット回線が必要です。あわせてネットワーク環境を確認したほうがよいでしょう。法人内のネットワークが統合されていなくても、クラウドサービスは利用できます。



もっと知りたい

46事業所のシステム統合をクラウドサービスで実現した事例



2. 包括での事務作業を、自宅で行う

居宅系
サービス

包括の悩み

職員本人や職員の同居する家族が、どうしても他県に行かなければならなかったり、帰省しなければならないことがわかりました。

職員は自宅待機扱いとなり出勤はできませんが、自宅で仕事を行うことはできないだろうか、と考えました。職員本人も、環境が整うのであれば在宅勤務をしたいという希望がありました。

法人として、職員間・利用者への感染拡大防止のため、在宅勤務を検討することにしました。

職員の家には、インターネット光回線が無いことがわかりました。

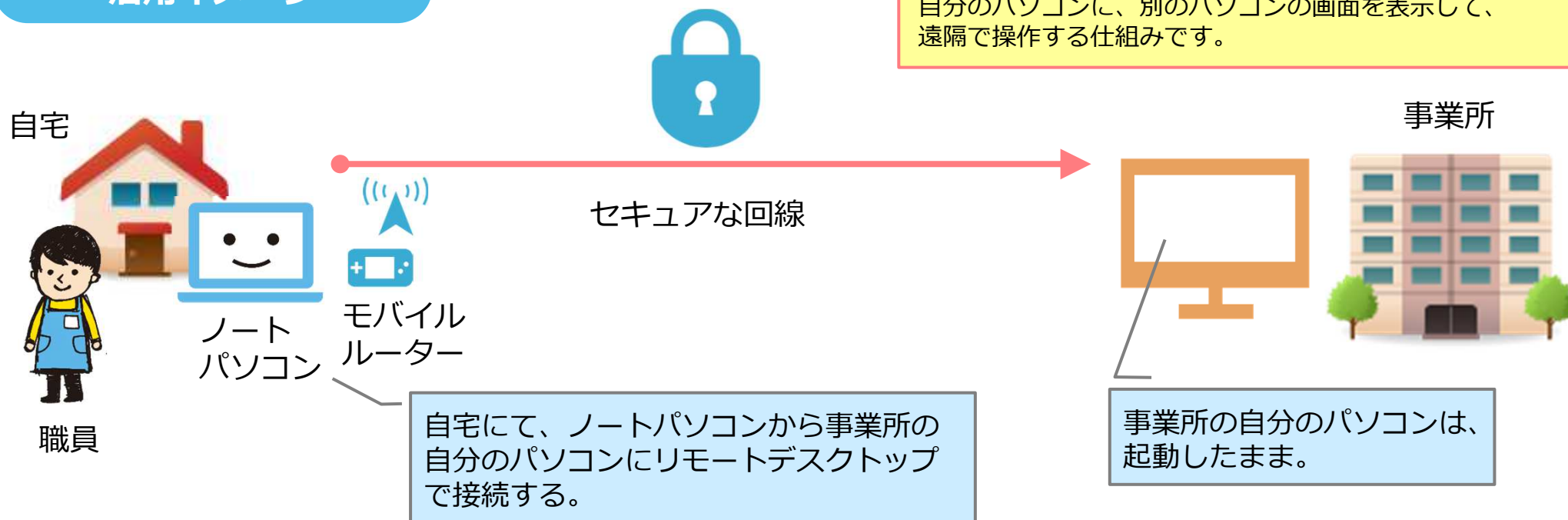
！ 対策とその効果

リモートデスクトップツールを導入しました。

- ◆◆ 職員は出勤することなく、自分のパソコンを家で操作しながら、在宅勤務を実現することができました。
- ◆◆ 法人から貸与したノートパソコンには、データが残らないため、万が一のセキュリティリスクを抑えることが出来ました。

2. 包括での事務作業を、自宅で行う

活用イメージ



実現のためのポイント

- ✓ 自宅でできる作業・できない作業の切り分けを行い、
なるべく書類の持ち出しを行わないようにスキャン・データ化を行いました。
- ✓ ノートパソコン・モバイルルータを購入し、
終息後も外出時や在宅勤務で活用できるようにしました。
- ✓ リモートデスクトップツールを利用し、
自宅側の端末に作業で使ったデータが残らないようにしました。



もっと知りたい

在宅ワーク用
ツールはこちら



3. 居宅ケアマネが、自宅や外出先から作業する

居宅系
サービス

居宅介護支援事業所の悩み

職員同士で感染が広まった場合、事業の継続は難しくなります。

職員同士の接触をできるだけ減らし、職員の外出機会を抑える必要性を感じていました。

法人として、職員間・利用者への感染拡大防止のため、**利用者宅からの直行直帰勤務**を検討することになりました。

職員からは、計画書の変更や支援経過記録・担当者会議の議事録などを登録できるだけでなく、**その場で印刷し利用者の押印をもらいたい**という声が上がりました。



対策とその効果

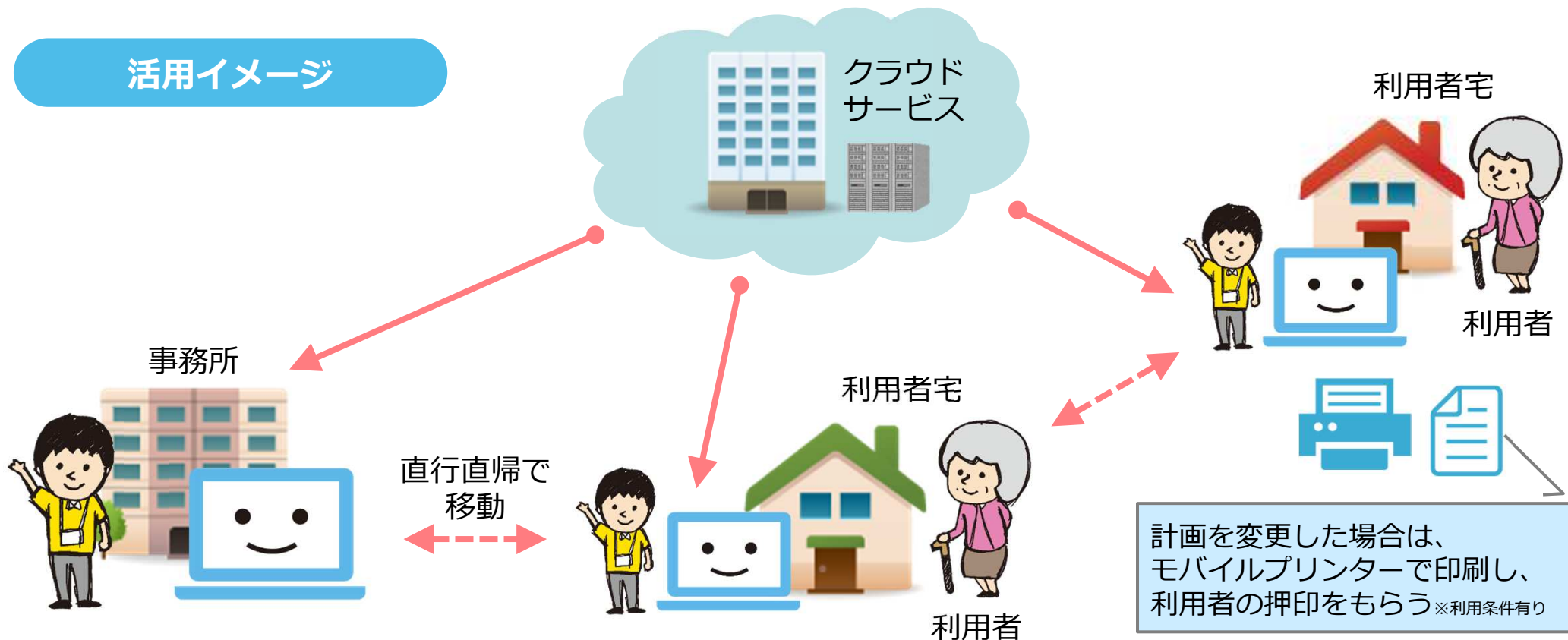


介護ソフト(製品名：寿)を、クラウドサービスで利用できるようにしました。

- ◆◆ 職員は事務所に出勤することなく、タブレットやノートパソコンからサービス計画の変更や、支援経過記録の入力を行うことができるようになりました。
- ◆◆ 利用者宅で計画書の見直しが発生した場合、モバイルプリンターで印刷し、利用者の押印を押して修正が完了できるようになりました。 ※利用条件有り
- ◆◆ 法人から貸与したノートパソコンには、データが残らないため、万が一のセキュリティリスクを抑えることが出来ました。

3. 居宅ケアマネが、自宅や外出先から作業する

活用イメージ



実現のためのポイント

- ✓ ノートパソコンやモバイルルータ等の貸与にあたり、利用ルールの検討(使い方・セキュリティ設定等)や資産管理を行う必要があります。
- ✓ クラウドサービスを利用するにはインターネット回線が必要です。利用者宅などの外出先でインターネットを利用できるよう、モバイル回線の契約・ルーターの準備を行いましょう。



もっと知りたい

寿ASPサービス
はこちら



4. 訪看看護師が、自宅や外出先から記録する

訪問系
サービス

訪問看護事業所の悩み

職員同士で感染が広まった場合、事業の継続は難しくなります。

職員同士の接触をできるだけ減らし、職員の外出機会を抑える必要性を感じていました。

法人として、職員間・利用者への感染拡大防止のため、**利用者宅からの直行直帰勤務**を検討することになりました。

職員からは、報告書の記入だけでなく、

利用者情報や指示書、支援経過記録など介護に関する記録全般を見たいという声が上がりました。



対策とその効果

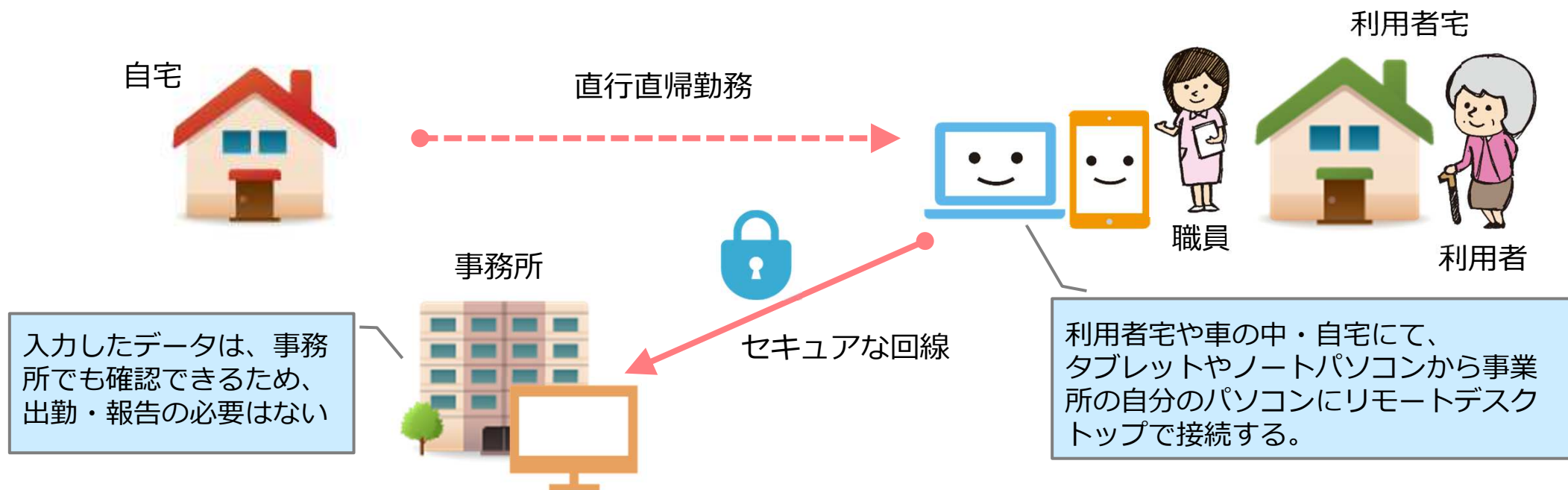


介護ソフト(製品名：寿)を、事業所外からリモートデスクトップで利用できるようにしました。

- ◆◆ 職員は事務所に出勤することなく、タブレットやノートパソコンから訪問実績やケアの記録を残すことが出来ました。また必要に応じて、利用者情報(フェイスシート)や指示書、申し送りを訪問前に確認しています。
- ◆◆ 各職員が入力したデータは共有され、請求データとしても利用するため、事務職員の入力作業が減りました。
- ◆◆ 法人から貸与したノートパソコンには、データが残らないため、万が一のセキュリティリスクを抑えることが出来ました。

4. 訪看看護師が、自宅や外出先から記録する

活用イメージ



※リモートデスクトップとは？

自分のパソコンに、別のパソコンの画面を表示して、遠隔で操作する仕組みです。

実現のためのポイント

- ✓ 利用者情報や申し送り事項など、どこに何を入力し確認するか、事業所のルールを作っておく必要があります。
- ✓ 事業所に出勤しなくてすむよう、リアルタイムにデータが連携される仕組みを構築しました。



もっと知りたい

タブレットを
利用した
訪看STの
働き方改革事例



5. 訪問介護のヘルパーが、外出先で記録する

訪問系
サービス

訪問介護事業所の悩み

職員同士で感染が広まった場合、事業の継続は難しくなります。

職員同士の接触をできるだけ減らし、職員の外出機会を抑える必要性を感じていました。

また、例外的に利用者宅に他県から家族が帰省していたケースもあり、なるべく職員や他の利用者との接触を抑えたいとも考えました。

法人として、職員間・利用者への感染拡大防止のため、**利用者宅からの直行直帰勤務**を検討することにしました。

職員は、ITの知識が豊富なわけではありません。スマートフォンを触ったことのない職員もいます。

！ 対策とその効果

介護記録用タブレット・スマホ入力システム(製品名：ケアプラス)を導入しました。



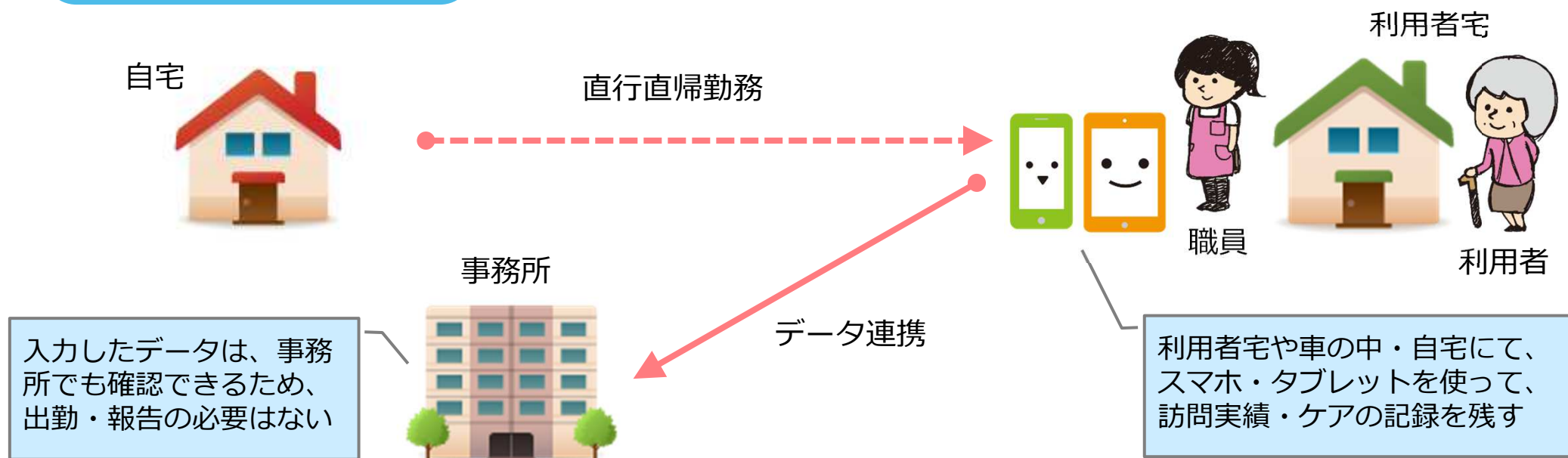
職員は事務所に出勤することなく、スマホやタブレットから訪問実績やケアの記録を残すことが出来ました。



各職員が入力したデータは共有されるため、申し送りや注意事項もスマホやタブレットからできるようになりました。また、請求データとしても利用できるため、事務職員の入力作業が減りました。

5. 訪問介護のヘルパーが、外出先で記録する

活用イメージ



実現のためのポイント

- ✓ 直感的に操作できる、簡単なツールを選びました。
- ✓ 事業所に出勤しなくてすむよう、記録データ・請求データが連携したシステムを選びました。

介護記録をモバイル端末から確認・入力

ケアプラス for 『寿』

+ もっと知りたい

ケアプラスの詳細はこちら

6. 面会制限中の入居施設にて、TV電話で家族と面会する

入所系
サービス

入居施設の悩み

入居施設にて、家族の面会を制限しています。

ご家族からは、面会制限がいつまで続くのかわからないなかで、利用者に会えないのは不安だという相談を受けていました。利用者も、普段面会に来る家族が来れない状況に気落ちしています。

法人として、利用者と職員への感染拡大防止のため、面会制限を緩和することはできません。

また、家族も高齢で、パソコンやスマートフォンを持っていない・使いこなせない方も多くいらっしゃいます。職員もITの知識が豊富なわけではありません。



対策とその効果

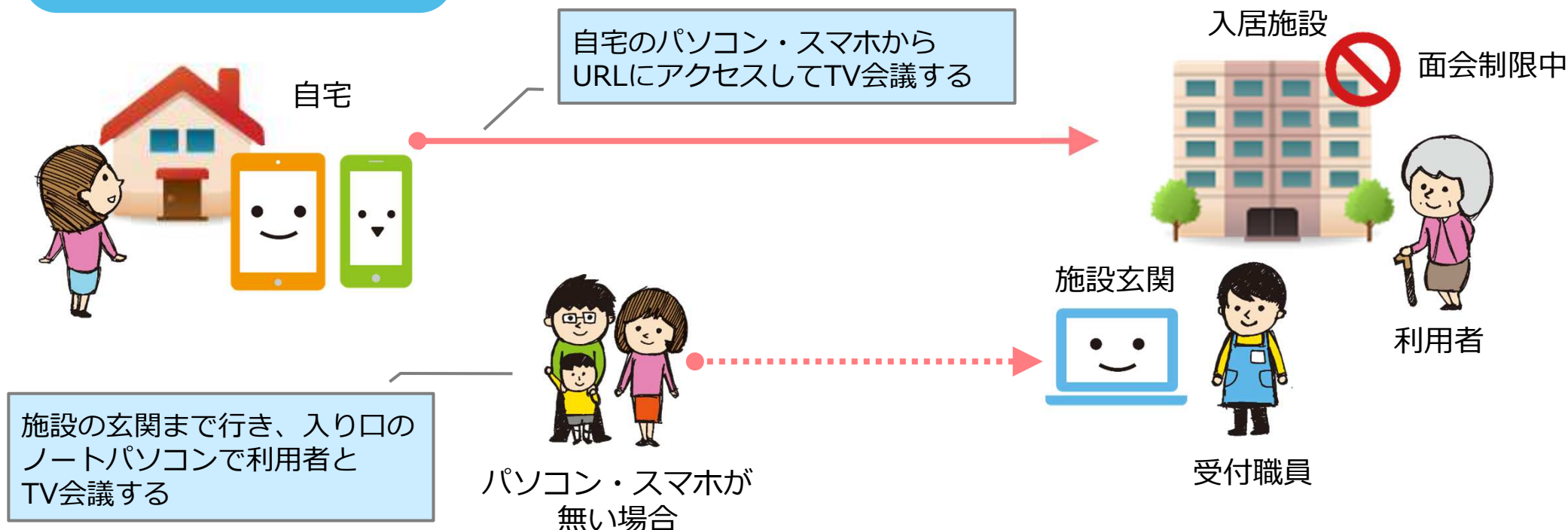


TV会議(WEB)会議ツールを導入しました。

- ◆◆ 家族と施設サイド(利用者・職員)の接触を抑えて、面会を実現することができました。
- ◆◆ 普段面会に来れない遠方に住む家族も、面会を行うことができました。
- ◆◆ 思っていたほど遅延もなく、リアルなコミュニケーションに近い感じがしました。

6. 面会制限中の入居施設にて、TV電話で家族と面会する

活用イメージ



実現のためのポイント

- ✓ 家族・職員のために**操作が簡単**で、
終息したら解約するかもしれないため**利用料で使える**TV会議システムを選びました。
- ✓ パソコンやスマホが無い、または高齢な家族のことを考えて、
入居施設の入り口にノートパソコンとTV会議システムを設置しました。
ノートパソコンは、カメラ・マイクが付いているので附属品を買う必要はありません。

【導入事例】『寿』で46事業所のシステム統合を実現！

導入事例

在宅生活を支えるICT連携

－法人システム統合の挑戦と実現－

姫路医療生活協同組合 様



姫路医療生活協同組合

【所在地】兵庫県 姫路市 双葉町10

【URL】 <https://himeji-mcoop.or.jp/>

【事業所数】 46

【職員数】 900名

【年間収益】 50億円

【導入製品】 介護トータルシステム『寿』
ケアプラス、イーキューブさらり



もっと知りたい

46事業所のシステム統合を
クラウドサービスで
実現した事例



このようなお悩みをお持ちではありませんか。

- ・ 法人内で事業所やサービスごとに、
使用しているシステムがバラバラで保守コストが高い。
- ・ 事業所間のデータ連携が出来ず、同じ情報を何度も入力している。
- ・ 事業所間の情報共有のため、紙・FAX・電話が多く、煩雑化している。
- ・ 職員の残業時間を削減しないといけないが、効果的な方法がわからない。
- ・ 介護記録業務のICT化をしたいが、
具体的にどうしたらいいのかわからない。
- ・ 職員がICT化に不安を持っている。

姫路市とその周辺地域で医療・介護事業を展開する姫路医療生活協同組合様は、在宅介護サービスを中心に46の介護事業所を運営されています。

「業務効率化」と「サービスの質の向上」を目的に、法人内のシステム統合とICT化へ取り組まれています。**モバイル利用による訪問系サービスの直行直帰、法人内のデータ連携による報告業務・紙使用量の削減を実現しました。**

今回は、法人運営・データ分析・システム統合・モバイル運用という切り口で、介護トータルシステム『寿』・ケアプラスfor『寿』の活用方法をご紹介します。

介護トータルシステム



サービスについてのお問い合わせはこちらから



099-269-9720

9:00 - 18:00(土日祝休み)



お問い合わせ
フォーム



TV会議(WEB会議)でのご相談も承っています！



MIC

株式
会社

南日本情報処理センター

医療福祉本部

〒891-0115 鹿児島市東開町4-104

TEL : 099(269)9720 FAX : 099(269)9719

URL : <https://www.kk-mic.jp/kotobuki/index.html>

mail : medcare@kk-mic.jp